第１６回 全国計量士大会　発表概要版

**１　東北・北海道地区（山形県計量協会）　　発表者　　安藤　寿啓　計量士**

**仮題　「新計量制度に対応する東北・北海道の取組について」**

◆キーワード：「継続した地区協議会」「各道県の活動の現状」「指定検定機関」

　　　　　　「計量士の役割」「今後の課題と将来の展望」

◆概要

　当地区では、本年１２月、第３９回東北六県計量士協議会を開催した。協議会では、北海道を含む7道県から、本大会のメインテーマに沿って、事前に各地で意見交換した内容を計量士活動における現状と課題及び今後の対応等について、それぞれ若手計量士から発表した。

　その中で得られた特に大きな課題のうちから、ポイントを絞って計量士の活動の現状、計量士の役割、検定の補助業務から指定検定機関へ向けた現実的な対応の検討、等について紹介し、これからの新計量制度に的確に対応する方策をいかにして見いだしていくか、について発表する。

**２　関東地区（神奈川県計量士会）　　　　　発表者　　横須賀英樹　計量士**

**仮題　「計量士の現状と課題」**

◆キーワード：「情報の収集及び提供」「実務紹介」「計量士の知名度及び教育」

◆概要

　現在の計量士には、新計量法への対応・情報管理・権限・人材等の課題があり、将来に向けた計量士業界の発展を考え実務を行っていくこととなる。  
　多くの課題があるなか、業界へ向けた希望、要望を盛り込んだ内容及び計量管理について検討した。現実的な踏み込んだ提案までとはならないが、若手計量士が直面している問題や要望している事案について、実務の紹介を含めて発表する。

**３　中部地区（愛知県計量士会）　　　　　　発表者　　廣瀬　幸造　計量士**

**仮題「事業所の自動はかりの計量管理の現状と新計量制度への対応」**

◆キーワード：「適正計量管理事業所」「自動はかり」「現状の管理」「新制度での管理」

◆概要

　中部地区の計量士活動は、各県の計量士会、計量士部会で行われており、今回は愛知県計量士会から報告する。

愛知県計量士会は、月例会において、行政及び計量関係団体からの情報提供と併せて、会員計量士からの人生経験、業務経験からの「計量士随想」の発表と関係法令、計量技術、管理技術に関わる「ミニ講習会」を1時間程度実施している。

今回は、これからの重要課題である自動はかりの適正計量管理事業所における管理を取り上げ、現状の管理状況である非自動はかりに準じた自主検査から、新計量制度への対応のため、適正計量管理事業所として新たな管理への移行についての考え方を発表する。

**４　近畿地区（京都府計量協会計量士部会）　　発表者　吉永　高志　計量士**

**仮題「自動はかりの検定制度導入と計量士の役割」**

◆キーワード：「自動はかりの検定」「指定検定機関」「適正計量管理事業所」

「計量士の役割と今後の課題」

◆概要

　新計量制度における自動はかりの検定制度導入を軸として、これからの計量士の役割と課題を考える。

自動はかりの検定制度導入に伴い、計量士が担う役割（業務）に、指定検定機関の検定業務と適正計量管理事業所の自動はかりの計量管理業務が加わる。計量士としてこれらの業務にどのように関わっていくべきか。計量士の役割と今後の課題を、京都府で開催した自動はかり関連の説明会での質疑応答・意見交換の内容も含めて発表する。

**5　近畿地区（大阪計量士会）　　　　　　　　発表者　山下　裕之　計量士**

**仮　題　「新計量制度に対応する地区計量士団体の活動」**

　　　　　　　――　計量士の知識習得・技能向上などに関わって

◆キーワード：「タイムリーな情報の収集と提供」「『日常的』に計量士が集う

　　　　　　こと」「『人材』の発掘」

　　◆概　要

　新計量制度を前に私たち計量士がやらねばならないことは多い。まず、その内容を理解する。更に、これまであまり経験していない事柄に対する知識の習得に努める。その上でこれから自分がやらねばならないことや、できることを主体的に考え行動を起こして行く。

そのような状況にある計量士に対して、計量士団体がどのように関わることができるのか。その取り組みの一つとして、大阪でこれまで行ってきた計量士団体（大阪計量士会・大阪市計量士会）の「日常的」な取り組みを紹介する。

**６　九州・沖縄地区（鹿児島県計量協会）　　発表者　　坂元　一光　計量士**

**仮題「日常の計量士活動における問題点及び自動はかり検定制度についての検討」**

◆キーワード：「経営者」「製造・修理」「代検査」「メンテナンス」「精度確保」

◆概要

　九州７県の代検査計量士を中心としたメンバー50名が参加して「九州計量士連絡協議会」を設立、年１回開催しており、本年11月で１４回を迎えた、

　この会の特徴は、製造・修理事業を経営する者で計量士資格も有する者が多く、代検査業務だけでなく、適正計量管理事業所の計量管理及び指定定期検査機関の定期検査も担当するなど、適正な計量に関わる幅広い活動を担っている。

　これらから得た、非自動、自動はかりを問わず、実際に現場でメンテナンスに関わってきた経験・視点から、現状の問題点、これから自動はかり検定制度を迎えるにあたり直面する課題について提案する。